

The Y's men's Club of *Kyoto Prince*

THE SERVICE CLUB TO THE YMCA AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y's MEN'S CLUB
 SANJOU YANAGINO BANBA KADO NAKAGYOU-KU KYOTO JAPAN, GIP 604-8083 TEL 075-231-4388
 URL <http://www.prince-ys.com>

強調月間
 Public Relation
 & Wellness

"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANES EVERY RIGHT"



Bulletin
 2008.11

2008年11月1日号発刊
 第25巻 5号
 通巻275号

会長主題 (CP) 廣井武司
 主題 「友情の輪を拓げよう」
 スローガン 和・話・輪
 WA WA WA

兄弟としていつも愛し合いなさい。旅人をもてなすことを忘れてはいけません。
 新約聖書 ヘブライ人への手紙13章1～2

国際会長 (IP)	V. S. Bashir (India)
主題	“Be the Light of Hope” 「希望の灯となろう」
スローガン	“Share with a smile” 「分かち合いは微笑をもって」
アジア会長 (AP)	Rita. Hettiarachchi (Sri Lanka)
主題	“Be the Light of Hope” 「希望の灯となろう」
スローガン	“Working Together to Serve Better” 「より良き奉仕のためにともに働こう」
西日本区理事 (RD)	佐藤典子 (熊本ジェーンズ)
主題	“思いやりを持ってワイズライフを!” 「Enjoy Y's life with Consideration!» —わかち合いは微笑をもって— 「Share with a smile」
京都部部长	藤田寿男 (京都ウイング)
主題	“意識を持って活動に参画しよう!” —555実現に向けて—



ニコニコ
 10月第一例会 4,000円
 10月第二例会 5,000円
 累計 24,000円



ファンド
 じゃがいも 320,095円
 すいか 24,200円
 その他 5,128円
 累計 349,423円



BFポイント
 切手 0p
 現金 0p
 累計 0p



10月第一例会 12名
 10月第二例会 17名
 メーキャップ 1名
 在籍者数 21名
 出席率 81.8%

ワイズダムのPRと ウエルネス

会長 廣井武司



「誇りと自信をもつてワイズダムの活動を地域の人々にアピールしましょう。存在感を高めたいのです。」

中堀西日本区広報事業主任の言葉です。

11月の西日本強調月間目標はPRとウエルネス。これらはこの月に限らず、一年を通して広く社会に訴えてゆく必要があります。特に11月はワイズ活動の活発な時期でもあり、それらをより有効的につかっ現代社会に私達の存在をアピールすることが大切です。

ロータリークラブやライオンズクラブと変わらぬ歴史をもつワイズメンズクラブの存在をもっと世の中に広報することが必要です。今月にワイズデーが設けられているのですから、もっとこの日をワイズPRの日として大きく展開できないものかと考えます。

ワイズの広報活動が活性化すればEMCの会員増強にも弾みがつくことは確実と感ずります。以前プリンスクラブでは独自のクラブパンフレットを作成して外への広報と新会員獲得のためのツールとして有効利用していました。現在はその姿をみることはありません。

アナログ的手法といわれるかも知れませんが、ポケットやカバンにいつも入れておき、いろいろな機会にタイムリーに手渡ししてワイズをプリンスをPRする。メンバーみんながワイズの広報マン、明日からでもできることです。そしてその手元にパンフレットがあるか無いかでは、その効果はずいぶん違ってくると思えます。誰にでもわかりやすく、それでいて魅力を感じてくれるようなパンフレット作りを考えてみたいものです。クラブブリテンはクラブライフには大きな貢献をしています。クラブの機関誌としてクラブ内の記録、広報にとどまらず、他クラブのワイズメンにも読んでほしいと願っています。ホームページでご覧ください。現在の区、部役員を除いてあまり閲覧されていません。それが現実かともわれま

費用がかかり手間がかかりその労苦を考えると今の時代では仕方ないのかもしれない。このことはメンバーの他クラブへの関心やクラブに関わる意識にも少し影響がきているようにも感じます。

今期のプリンスのブリテンは西日本区ではちよっと驚きを与えています。紙面の変化に関心があるようです。

みんなが関心を持って、読まれるブリテンを目指しての紙面大改革ですと答えています。

ブリテンはクラブ内での機関誌であり、外部への広報誌であるとともに、西日本区への情報誌であることも確認して、メンバーみんなに大切にされるブリテンに協力を願います。

ウエルネスについては、ワイズ用語に人間生活を個人的にも社会的にも健全なものにしようという運動で、私たちをとりまくストレス、運動不足、環境破壊などに意識して立ち向かい、とあります。

まずはワイズメンそのものが、ウエルネス運動の目的に率先してリーダーシップを取る大切かと思

以前ウエルネスとしてもらったシールに記載されていた言葉を今一度思い出してみましょう。

少肉多菜 少塩多酢 少糖多果 少食多齟 少車多歩
少衣多浴 少煩多眠 少念多笑 少欲多施 少言多行

ワイズ活動を展開するにしても、まず自分自身の体が大切です。まず、この10則から考えてみませんか。

10月第一例会

三村良行



10月第一例会は、グローバルクラブのホストでグローバル、ウエル、プリンスクラブ3クラブ合同での例会としてリーガロイヤルホテルにて開催されました。

紺谷グローバルクラブ会長の開会点鐘で開会、引き続きワイズソング斉唱としてグローバルクラブ恒例であるグローバル宣言を参加者全員で唱和。クラブとして目的、目標を明確に掲げそして例会出席者全員で毎例会、声を出して唱和することでメンバーのクラブに参加することの意識高揚に繋がると思いました。

今回の開会挨拶は永井ウエルクラブ会長、ホストクラブに対する謝辞に始まり、自クラブのメンバー数低下に対する思いそして今期、合同例会を多数計画しメンバー増強にかける思いなどを語られました。親クラブメンバーの一人としてウエルクラブメンバー全員の奮起と今後の活動に期待しています。

食事歓談の後、本日のゲストスピーカー中尾尚志アキレストップジム代表の講演を拝聴させていただきました。中尾氏は京都市生まれの63歳、高校生の時に独学でボディビルを始められ、大学の時にはミスター京都、準ミスター日本になられ日本体育施設協会トレーニング指導士の資格を取得され現在アキレストップジム代表、国内では連盟の一級指導員、一級審査員、国外では国際審査員として活躍中、講演は3クラブメンバーから事前に質問等を取られ、ご自身の豊富な知識、経験からお答えを頂く形で進められました。

特に印象に残った部分は自分の食生活をこのまま続ければ、メタボ予備軍で自分の健康だけでなく医療費増など社会問題であることでした。私と同じ思いをもたれたメンバーががんばって適度な運動、適切な食事を取れるようになりましょう。そして中尾氏の言葉で母親の食事が大切で国を作る、この言葉からメネットさんたちに更なる感謝をしましょう。最後に例会出席者数ですが61名の例会でウエル、プリンス合わせて16名では残念でした。来年の合同例会ではがんばって両クラブメンバー増強し集いたいものですね！
プリンスクラブ自身の踏ん張り時だと思えます。親クラブとしても。

10月第二例会 おもしろ討論会

加藤俊明

10月の第2例会は、10月16日(水)。少しだけ緊張気味の磯谷ワイズの司会のもと始まりました。この例会もビールのOKの例会、その日のメインプログラム「気楽に討論」で舌が滑らかになるようにと仕掛けられていましたが、車の人も多く当初の期待ほどの本数は出なかつたようでした。

しかし、食事のあとのメインプログラム「気楽に討論」ドライバー委員会の新たな試みです。日頃ワイズメンズクラブの話となると喧々諤々になるそのプリンスクラブのエネルギーをワイズとは直接関係のない話題で盛りあがるものか試してみようと言う意図があつたかどうかは知りませんが

「モンスターパーアレントと学校教育」「裁判員制度導入と死刑の有無」「今シーズンの阪神タイガースをどう思うか？」の3つのテーマのうちから2つを取り上げてグループで討議しようという企画。まず先の3つの中から2つを選ぶのにそれぞれどの話題に加わりたいか、テーブルを移動して決めることになりました。

普通考えると関西でこの3つの中で一番盛り上がりそうなのは3番目のテーマのはずですが、なぜか外れたのがこの3番目のテーマ。メンバーが真面目なのか高貴な人が多いのか判りませんが、さすがプリンスクラブ。



あるテーブルの人が皆動くのをめんどくさがったという話もありましたが、それでも残った2つの話題でグループに分かれて討議が始まりました。
しかしそこはやはりプリンスクラブ。この2つのテーマでも話は盛り上がる。どちらのグループも役員会同様、喧々諤々の討議が繰り広げられ、予定されていた時間があつという間に経ちました。最後に小野ワイズが「モンスターパーアレントと学校教育」、永濱ワイズが「裁判員制度と死刑の有無」のそれぞれのグループ討議のまとめにくい話をうまくまとめて報告されまじは、この企画は成功裡のうちには終わりました。
その後の恒例のニコニコでは関西ワイズの中年ライダー遠征記と西村ワイズの西国28箇所逆回り記など旅の話題で盛り上がりました。



大会は6月29日から31日の2泊3日の日程でサンパウロ市から北東約200kmにあるサンパウロ州Compos do Jordao市のワイズメンが経営するホテルParque Hotelで開催された。プログラムは三部に分かれ第一部は29日の夜8時からフラグセレモニーが始まる開会式、区理事の挨拶と講演。フラグセレモニーは聖書とろうそくに先導されて会場に入場するが、突然聖書を持ってクラブ旗を先導するよう指名され、榮譽ある役を担うこととなる。その後10時30分からエンターテイメントとしてロマンスグレイの男性歌手を囲む音楽会がロビーで開催される。歌手や参加するメンバーの年齢が比較的に近いこともあり歌手の歌うオールディーズに合わせ大合唱が繰り広げられた。時計の針は夜中の12時を回るも音楽会のと街に繰り出す人もいて、総じて私より小柄な人たちの体力には驚かされた。



西堀和之

二日目は第二部が朝8時45分から始まり、日程の説明、理事の「動機付け」、サンパウロYの総理事によるゲームを交えての「理想的な奉仕活動とは」と題する講演、グループディスカッション、ワイズリンク(コメント)の活動報告と基金集め、隣国ペルーに派遣されたユースの報告などが延々と続き午後4時半に終了。昼食抜きでプログラムが進んだ結果、食欲もなくなるが食べ物をお腹に納め夜のプログラムに備える。

大会のオプシオンとして地ビール工場を見学があり、バスが午後5時に出発というのであわてて乗車。醸造タンクが5基ほど並ぶ小さなビール工場で見学者はたらふくビールを試飲する。ビール工場はドイツ系移民が国を懐かしみ工場を造ったと聞く。外に出ると日本の晩秋を思わせ霧が発生。幻想的な風情をかし出し出していた。ホテルに戻り夕食を取って部屋でのんびりしている。第三部の閉会式があるから会場に集合と声がかかり全員集合。午後8時から第三部の閉会式が始まる。私の座席はこの時だけは理事、エリア会長、サンパウロYが居並ぶ壇上に用意され晴れがましい思いをする。



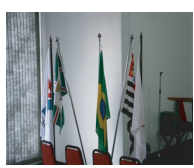
閉会式では理事の交代、次期エリア会長の所信表明、役員初め各クラブ会長に理事からの記念品の贈呈と続く。渡された記念品はYの職業訓練の一環で作成された、ロゴ入りのポロシャツであった。

大会役員からBF代表としての挨拶をするようにといわれていたが、何時といふことは教えられていなかったので昨夜から緊張の連続。時たま英語のできるワイズメンのから講演やプログラムの内容を通訳してもらっていたが、彼の英語も私同様で充分に理解ができず緊張と理解ができないうとから来るストレスで疲労を覚えていたが、指名をされてワイズメンの前に立ち日本のワイズメン、西日本区、京都部の活動についてスピーチをする。



人前で話をするのはワイズメンとして生活の中で多少とも慣れてきたが、英語のスピーチとなると学生時代以降久しく果たして通訳をしてくれる人が私の話解ってもらえるか心配したが、オーストラリアからのBF代表のスピーチより私の英語のほうが解りやすかったと言っ

て貰い内容は別としても40余年前にYで英語を学んだお陰と感謝する。大会行事も最終章となり三日目はCompos do Jordao YNGCAを見学。雨が降ってなければ屋外でバーベキューパーティーとなるはずであったが、急遽体育館に会場を移し昼食。この昼食会はCompos do Jordao Clubの例会振り替えて、サンパウロ州旗、市旗、クラブ旗に拍手の礼を持って始まり、聖書朗読の後、会長の挨拶、新会員の入会式、ワイズリンクによるパフォーミングがあり広い会場も熱気でむんむんさせながら午後3時過ぎにお開き。バスに乗るもの、自家用車で乗り合いますものそれぞれがまたの再会を期待し別れを惜しむ。



次号へつづく

大会参加登録は120名でブラジル区約1/3強のメンバーが参加したことになるが、プログラム全体を通して研修会的要素が多く仮に言葉が理解できたとしても肩の凝る大会であった。更にレジメ通りにプログラムが進まずブラジル人の時間の観念を疑うも、参加者全員不平不満も言わず満足をしているのを見ていると郷に入れば郷に従うという意味が良く理解できた。この大会で気が付いたことは西日本区大会ではコメントの出番が全く配慮されていないが当地ではコメントの活動を積極的に紹介しワイズメンの子弟勧誘を促す動きが見受けられたことである。西日本区でもユースクラブの設立を促し、現にクラブが活動をしているがその実態が不明ゆえユースクラブの認識が希薄であると共にクラブが増えない原因でもあるように思う。大会のあり方がブラジルとは違うのでいたし方が無いといえればそれまでであるが、西日本区大会のあり方も昨今の経済情勢から多少見直しても良いのではないかと思う。

「ジャガイモ販売」



小泉 洋



Y、サ／CS事業のクラブ活動資金となる、クラブファンド最大の事業であるワイズポテト等の購入受け渡し、10月5日の日曜日に毎年お世話になっている京都市中央卸売市場で行なわれました。

当日の天気は、あいにくの雨天となり、早朝よりしとしとと雨が降り続き、配達に多少支障のする日となりました。午前8時の受け渡し開始に合わせて、7時より配達用トラックの手配と受け渡し場所の準備に取り掛かりました。

毎年の事ですが、当日取りに来られないメンバーの分、購入数量が多くて自分の車では積載不可能なメンバーの分、そしてOBメンバーの分と配達があるわけですが、今年は大型の車が1台しかなく何回かに分けて配達しました。又、ファンD委員、三役の車にも小分けして、皆が配達人となって手際の良い配達となりました。そのお陰で予定の11時を少し回りましたが、無事終了する事が出来ました。雨天という事で少し肌寒い日だったので、箱の積み降ろしを続けると汗ばむぐらいで、朝からいい運動をさせてもらいました。

販売数量は、ここ2年間は500ケース程でしたが、少し増えて総数553ケースと1割増しとなりました。ほぼ同じメンバー数からすると、皆様のひと踏ん張りのお陰だと思います。ありがとうございます。

この収益金は、Y、サ／CS事業の活動資金のみならず、その販売活動をすすめる事によって、ワイズメンズクラブの広報の一助ともなり得て、大変有意義な事業だと再確認しました。

第十三回びわこ部会

岡西博司



10月18日（土）真晴れの土曜日、なんと素晴らしいゴルフ日和。私は、朝8時30分我が家を出発。バスに揺られて京都駅へ。今日はびわこ部会であるワイズの世界。今日は、「今日は、最高のゴルフ日和やなー」と言いつつ、大津へ向かったのであった。

10時時登録開始、10時30分開会。内容は、何にも解らず。何があるのか？ ビッグハプニングが待っているのか？

大体今までの部会は夕方から夜にかけてであるが、今回は朝から昼2時過ぎまで、期待と不安の混在する中、京都駅のチケット販売の窓口には、熊本からの友人が駆けつけて来ているではないか。全くご苦労様であるのか？



10時30分の開会。ワイズソング斉唱。「すいません。伴奏のテープ忘れしました。ちょっと待ってよ！テープ忘れしましたとはなんや！」

来賓の紹介もめっちゃめっちゃ。名前は間違えうし、紹介し忘れずるし、リハーサルはしないのかなあ？

でも、ええ加減にせんとあかんで！

部長挨拶も、今日の言い訳ばかり。他の団体が大津中のホテルを押さえてしまったので、時間が無くて昼になりました。唯一良いのは早く終わることです。・・・啞然！

昼から、酒飲んで、大して上手くもない料理を食べて、何にも無い部会。何の為に部会をするの？

総勢100名ほどの参加。その半分ほどは他の部の人たち。こんなことやったら衰退もしまっせ！

僕も偉そうなことは言えませんが、みんな真剣にワイズの将来を考えないと、本当に大変なことになってしまいますよ。今回のびわこ部会に参加させていただき、ちょっと、そんなことを思いました。

いっぱい悪口を書かせていただき、すいませんでした。言い過ぎたとも思います。でも、僕もワイズ大好き人間ですし、びわこ部の中にも本当に多くの大事な友がいます。お互い切磋琢磨して、末永い友情を持ち続けることが出来そうですよう祈っております。

今回の苦言、本当にすみません。ワイズの友のよしみでお許し下さい。



さて、現在の日本のYMCA（京都や熊本などの都市型YMCA）活動の中でリーダーと言葉を使う時、大方の関係者がイメージするのは、若くて（主に現役学生）地域YMCAで、サービスパログラム（特に子供たち向けの健康スポーツ、学習、野外活動、障害児支援等）に、ボランティアとして関わる青年像ではないかと思いが、現実にはボランティアと言うよりもYMCA収益を担う准スタッフ扱いの有給パートタイムとしての地位となっているようです。むしろ、特に戦後の復興期と軌を一に活発化してきた日本各地のYMCAでは、青少年たちへの社会教育機関としての地域ニーズに応えるプログラムを動かすために有給スタッフとともに、社会人（ワイズメンも多数含まれた）、学生青年ボランティア（リーダーと呼ばれる）が力を結集しYMCAの使命と価値の実現（特に青少年教育）に多大な貢献をして来たことはご承知の通りです。

しかし一方で、特に都市部のYMCAでは、組織発展に向けて、サービスの多様化と参加者増加に答えながら、更なる経営安定化を目指すために組織運営の専門性が高まり、ボランティアとして自己研鑽を目指す青年たちの役割やおじさんおばさんたちの世話好きワイズメン的役割が、活躍の場が近年、狭ま

それと彼らの置かれていた立場からすると無理からぬこととは思いますが。各YMCAでのリーダーの働き全部が全部そうではないかもしれませんが、ユースクラブ設立の意義も含めてもう一度原点に戻り、ワイズとリーダー、YMCAとの関係のあり方も含めて、ひがしクラブではリーダー支援の方法を、同じYMCA活動を担う同志として結束を深める見地から再検討中です。プリンスクラブの今後のリーダー支援のあり方の一助になればと敢えて多少独断的に述べさせて頂きました。

熊本の例では、現在の所謂リーダー達の役割は、財団法人YMCAの対価をもらうサービスマの重要な担い手となっており、インストラクターやパートタイマーと同じく経営を担う有給の准スタッフとしての働きにシフトしています。私の所属するひがしクラブも青年会員たちとの交流を深めるために、クラブからのアプローチとして年二回ほどボランティア・リーダー交流会、励ます会、例会招待など実施していますが、彼らから見れば、YMCA活動を支援する社会人ボランティア会員としてのワイズメンの姿は、いまひとつ彼らと接点が乏しいせいか理解しがたい存在のようで、Y活動上、関係を深めるべき対象とは見なされていないようです。

皆様もご承知のごとく、今日のYMCAでは会員活動の活性化を目指して、米国発のメンバースhip・バイ・デザイン（略してMBD）キャンペーンを展開中です。専門スタッフ運営に偏りすぎた反省からか、米国YMCAでは、組織の最優先課題として、会員への取り組みを掲げ、YMCAの財産は、プログラム参加会員と言うよりもむしろYMCAの真の価値を正しく評価し活動する会員である（注：ワイズメンの姿そのもの）と位置づけ、YMCAの価値・使命実現の担い手としての会員の力で、地域の中心にあつて、人々を温かい連帯の絆に迎え入れるYMCAへと回帰しようとしていきます。もともとYMCAの起りも、当時、イギリスで孤独と自暴自棄に陥って目標を見失った都市の青少年たちへ夢と希望を与えるためのものであったことを思えば当然とも言え当然です。近年ワイズ運動が下火となつているワイズ運動発祥の地、米国での動向は今後、我々も関心を持って見守りましょう。

そこで、ワイズメンクラブはYMCAに忠誠心を持ってパートナーシップを発揮すべくYMC A支援を宣言している会員の集まりで、世界的友好親睦団体としての存在根拠の最大のものはYMCAの使命を広く社会に浸透実現させるためでもあります。

Yの経営スタッフや青年リーダー（次の世代を担う意味での）、他の会員に勝るとも劣らない情熱をもって、彼らと協働して地域社会に根を降ろし、時代の空気、流れや人々のニーズを敏感に捉えるアンテナを張り巡らし、YMCAが担う課題の解決のために、その社会改良へのエネルギー、人材ネットワーク、幾ばくかの資金等を提供できればとワイズダムを発展ととも期待しているところですが、ま

とまりに欠ける文でしたが、貴クラブの今後のご発展、特にYMCA活動への強力なご支援を祈念して筆を置きます。

プロフィール

- 1985年 熊本クラブ入会
- 1987年 日本区BF事業主任
- 2003年 熊本ひがしくらぶへ
チャーターメンバーとして移籍。

現在、熊本YMCA理事、常議員会議長

入会しての思い

磯谷 康夫

この世に生を受けて早50年が経った。早いものです。別段不幸の人生ではない。むしろ今の自分が存在する事を神に感謝すべきだと思います。

五体満足に生まれ、大学を卒業し、社会に入り家庭を作り今日まで生かさせてもらっている。会社もあり、妻も子供もいる。食べるに困らない普通の生活も出来る。

しかし、なぜ私は今存在しているのだろうか。

人間は自らの意思を持って、誕生するわけではない。両親から生を授かり、気がつけばこの世に存在したのかもしれない。

しかし、私はそうでなく人間の存在は必然であり、人生には、明確な目的と意義が存在すると考えている。

人間は、深い知恵を有し強い意志を持ち、豊かな感情を持ち、高度な精神活動を営んでいる。その意義とは何であるのか？すばらしい知的能力を有し、高度な文明を築き上げることの出来る人間にふさわしい崇高な存在意義、それは、この宇宙に存在するすべてのものに対して、善き事・奉仕をしてあげることではないかと、私は考えている。

すなわち、世の為人のため、善かれと思う事を行う、あるいは愛や慈悲といった行為に努めることが、人間の価値をより高め、人生を意義あるものにするのではないかと考える。奉仕はなぜやるかと言う疑問を持つときもある。私は奉仕とは自分が幸福だと感じたとき、それに対するお返しのような気持ちだと言う。人に恵んでやるとか、気の毒だからあげると言う考えではない。自分の幸せを感謝して分けるという考えである。奉仕には、ご恩を受けた人に感謝の奉仕や社会への奉仕がある。

例えば、自己犠牲を払ってでも家族や友人の為に尽くす。身寄りの無い老人や恵まれない子供たちのために何かしてあげる。または企業経営を通じて多くの従業員の幸福に努め、さらには雇用や納税、科学の進歩などに寄与することで、国家や社会の発展に貢献するということです。

人間とは欲の塊である。勿論その「欲」があるゆえに進歩も発展もあるのだろう。ともすれば自らの立身出世など利己的なことを人生の目的にしてしまう。時にはその欲のために人を傷つけたり、社会に反したり。



しかし、いくら立身出世を遂げ、高い地位と豊かな財産、社会的な名誉を獲得したとしても、やがて迎える死の旅路には携行できない。死にあたり、肉体を放棄した後は、魂しか残らない。

その魂しか残せないのなら、豊かな美しい魂を残したいと思う。地位を築いたとか、財産を殖やしたとか、名誉を勝ち得たなどということも大切だが、決してそれが、最終的な人生の目的ではないはず。

年齢を重ね、人生の最後を迎えるときに、あの人はいい人柄だったと言われる様になることが功績かもしれない。

以上が今回ワイズメンズクラブに入会しての思いである。

環境事業報告

皆様のご尽力で回収された使用済み割り箸の出荷作業が案内の通り10月11日土曜日、廣井会長宅のガレージで行われました。当初雨が予想されていましたが心配して下さり、記の数量が王子製紙(株)春日井工場宛に出荷することができました。出荷作業にご協力いただいた方々には御礼申し上げます。

10月11日出荷分

10カートン

111,000本

この他に10月7日に3カートン、33,600本が出荷されていますので10月11日現在の出荷量は合計13カートン、約144,600本が出荷されたこととなります。

7月1日からの累計は:

33ケース

401,600本

もし、皆様のお手元で出荷していただいているものがあれば、運賃は委員会から出金手続きをいたしますので、送り状またはそれに類する資料を委員会までご提出お願いします。

地域奉仕・環境事業委員会

委員長 西堀 和之



23年前1986年京都プリンスクラブは誕生しました。プリンスクラブのエンブレムにはその年度がワイズメンズクラブのエンブレムに加えられている。パレスという名馬から生まれ、当時の表現を借りると、サラブレッドと言われ次代を担うクラブとして大きな期待を持たれていました。リーダーは現会長の廣井君でした。「ファミリーなクラブ」を合言葉として歩み始めました。プリンスは時々変わったことをします（今期のブリテンも）当時日本区では初めてというメンバーのフィアンセ同伴でのチャーターナイトを持ちました。

本来プリンスクラブは何かにつけ一工夫をしておりました。クリスマス例会でもぐらたたきゲームや、サンタが出てくる暖炉を作ったり、新年例会でもそれぞれの委員会が思考を凝らしたかくし芸？を見せられ連日遅くまでその練習をしたこともありまして。当然メネットもそれに参画し、わーわー言いながら、遅くまで衣装を作ったり小道具を作ったりしていました。そこに会話が生まれ、自然と連帯感が生まれ、そこから各事業にも毎年一工夫するようになり、プリンスのカラーが育っていきまして。

集中して受験準備にかかりました。途中国際大会では一時的な骨休みと考え気分を変えることができたのも、三役を始めクラブ全員が協力してくれただけで済んだ。一次が受かり、二次を受け「あかん、すべった」と思いました。メンバーは「大丈夫やて」と言ってくれていました。どのように言われても私は確実に落ちたと思っておりました。合否の発表は12月「合格」の連絡が入り自分の目で確認しに行き、その場から公衆電話を探して三役にお礼の電話をいれました。家に帰りメネットに受かったことを告げるとメネットと思わず抱き合い二人で泣きました。

三役の協力、メンバーの理解が私を助けてくれました。廣井会長が掲げたファミリーなクラブを心底感じた一日となりました。ファミリーなクラブの本質がここにありそれを私はこの時知ることができたと思っています。実際に幸せな経験でした。自分の苦しみをみんなが理解してくれる、そして喜んでくれた。まるで自分のことのように、この仲間を大切にしようと思えました。

5周年を迎えます。2011年11月プリンスクラブは25周年を迎えます。プリンスがプリンスらしく行動して、そのファミリーが大きくなりその大きくなった力を結集して、子供たちにすばらしい未来を渡すため行動基軸をキーマン一人として考えていきたいと思います。

その力の元は「人」です。中のいい夫婦には子供がたくさん生まれます。中のいいクラブには力の元となる交流があり、その交流の中から生まれ出る力がよりよい活動を起こさせ、それに刺激を与えられた人たちが今度は寄ってくる。そのいい循環ができるクラブ環境を整えていきたいとも考えます。これまでスクラブの活動が京都部、そして西日本区へのいい刺激となるように心がけていきます。

楽しいかなプリンスクラブ。

京都YMCAからのお知らせ

1. 世界YMCA・YWCA合同祈禱集会

毎年11月第2週は、世界YMCA・YWCA合同祈禱週として、同じ日に全世界に広がる

両団体で熱い祈りがさざげられます。京都YMCAでは、今年も昨年につづいてYMCAと合

同で祈りのひとときをもつべく計画しております。

日時 11月13日(木) 午後6時30分～9時
会場 京都YWCA (地下鉄丸丸駅下車2番出口より徒歩7分)
電話 075-431-0351)

テーマ 「自由と平等に生まれて 一神に祝福された人権」

内戦続くミンダナオ島の平和構築について報告会

フィリピン・ミンダナオ島ムスリム自治区では長年続く内戦で住民が避難生活を送らざるをえない状況に加え、早ばつ、洪水が繰り返される中、貧困率63%とフィリピン国内平均34%を大きく上回る経済状況です。

また、9.11以降、フィリピン政府軍とアメリカ軍のテロリスト掃討作戦の名の下に人々は苦しんできました。そんな状況下で活動を続けておられるデデットさんをお招きし、現地の活動報告を伺うとともにワークショップを交えながら私たちに出来る平和活動を創る活動について考えます。

講師 デデットさん ムスリム自治区バシラン島で活動するNGOミンダナオ平和構築協会事務局長

参加費 500円(お茶菓子付)

2. リトリートセンターオータムフェスタ

森の中で美味しいお店がお待ちしております。

都会の雑踏を離れて、ご家族やお友達と秋の自然をお楽しみください。

自由参加型プログラムとして綱引き大会などリトリートセンターを使った楽しいプログラムを用意致しております。

日時 11月16日(日) 午前11時(開会)～午後3時(閉会予定)
場所 京都YMCAリトリートセンター 電話0774-24-3838
入場料 チケットをお求めください。

(大人2,000円 小学生1,000円 幼児 無料)

※各クラブ、YMCA三条本館でチケット販売致しております。

駐車場無料

京都YMCA三条本館、京阪宇治駅、JR宇治駅より

マイクロバスあり〔有料予約制〕

3. 国際協力募金街頭募金にご参加を

11月2日(日)は京都YMCA国際協力街頭募金の日です。このプログラムは京都YMCA国際協力キャンペーンの一環として行われます。平和を訴えていく一つの機会として、是非ご参加・ご協力ください。

日時 11月2日〔日〕 午前11時50分

集合 京都YMCA 三条本館

国際理解セミナー (YMCAの国際協力について) 午後12時～午後12時30分

街頭募金 午後1時～午後3時

解散 午後4時30分

京都YMCA 三条本館

募金場所 三条河原町・三条大橋など市内約10ヶ所

※雨天決行(警報の出る可能性のある実施については当日午前10時に判断いたします。天候不順の場合は事務局にお問い合わせください。)

※当日昼食を済ませてご参加ください。

4. スキーキャンプ受付会員優先

11月4日(火)～5日(水) 午前10時～午後6時

お電話にて受け付けます。 電話(075)231-4388

上記に限りFAX・Eメールでも受け付けます。(24時間)

FAX(075)251-0970

E-mail skicamp@kyotoymca.or.jp

11月6日(木)からは会員外の方の受付が開始されます。

お電話のみの受け付けとなります。

5. ボランティアセミナーのご案内

1. ちょこっと ボランティア

車いす介助の講習会

障がい者も高齢者も子どもも、だれもが地域の中で一緒に生活をし、社会参加をする「ノー マライゼーション」の考え方が最近では多くの人に受け入れられつつあります。設備を整え、だれにでも行動しやすい環境を作ることは大切です。しかし、そういったハード面の完備を待つより前に、周囲の人がさりげなく声をかけ、必要な援助をすることで、自由に行動できるようになる人がいっぱいいるのです。

今回、車いすの介助方法に焦点をあて、安全で適切な誘導介助の方法を教えてください。

講師 中井敬二氏

(日本自立生活センター アドバイザー・車いすと仲間の会 事務局)

日時 2008年11月21日(金) 午後6時30分～8時30分

場所 京都YMCA (三条柳馬場角)

参加費 お一人 300円 定員30名(先着順)

2. がん患者さんとそのご家族へ 第21回

苦しみ、悩み、不安を共有しませんか。

この会は患者さんとそのご家族が抱えている苦しみや悩みについて、患者さん同士、そのご家族同士が話し合い、がんとうまく付き合うための情報交換の場です。

日時 2008年11月15日 午後7時～9時

場所 京都YMCA (三条柳馬場)

参加費 お一人 300円(お茶代等)

チケットのお求め・お申込み・お問い合わせは 京都YMCA 三条本館 まで
〒604-8083 京都市中京区三条通柳馬場角 電話075-231-4388
FAX(075)251-0970 E-mail Kyoto@ymcajapan.org

11月の予定

- 1日(土) キャピタルクラブ25周年記念例会
ウエスティン都ホテル京都17:00～
- 2日(日) YMCA国際協力募金・ワイズデー
- 3日(月) 専門学校学園祭
- 5日(水) 第一例会(100人例会) 19:00～21:00
グランドプリンスホテル京都
- 8日(土) 大阪クラブ80周年記念例会
- 9日(日) 廣井杯ゴルフコンペ
- 19日(水) 第二例会(通常例会) 19:00～21:00
グランドプリンスホテル京都
- 16日(日) リトリートセンターオータムフェスタ
- 23日(日) めいぷるクラブ25周年記念例会
ウエスティン都ホテル京都 18:00～

10月21日(金) 三役会 廣井会長宅

10月26日(水) 役員会 京都YMCA

12月の予定

- 3日(水) 第一例会(通常例会) 19:00～21:00
グランドプリンスホテル京都
- 19日(金) クリスマスキャロリング
- 23日(火) 第二例会(クリスマス例会) 19:00～21:00
ウエスティン都ホテル京都
- 11月19日(金) 三役会 廣井会長宅
- 11月24日(水) 役員会 京都YMCA

役員会報告

審議事項

- ①100人例会の登録費

メン同伴ゲスト	¥3,000	承認
メネット	¥3,000	
ビジター	¥5,000	
- ②ネームタッグ

	¥5,100	承認
--	--------	----

ハッピーアニバーサリー



- 7日 廣井武司君/雅子さん
- 12日 永濱貴章君/佳恵さん
- 16日 森伸二郎君/節子さん

ハッピーバースデー



- 19日 小泉 洋君
- 20日 古川可奈子コメット
- 26日 毛利美奈子メネット
- 28日 森 美歎マゴメット

